

やまなかおんせん

山中温泉地区

(石川県加賀市)

- 計画期間 令和元年度～令和5年度
- 面積 28ha
- 交付対象事業費 454百万円
- 市人口 63,830人

ポイント

温泉情緒と伝統文化にふれる回遊型観光まちづくりの推進。

目標

温泉街の中心である総湯「菊の湯」を核としたまちなか周遊拠点の機能強化による賑わいづくりを図り、また、温泉街と鶴仙溪の散策ネットワークを構築し、地域資源である鶴仙溪の自然景観を活かしたまち歩きが楽しめる環境を整える。

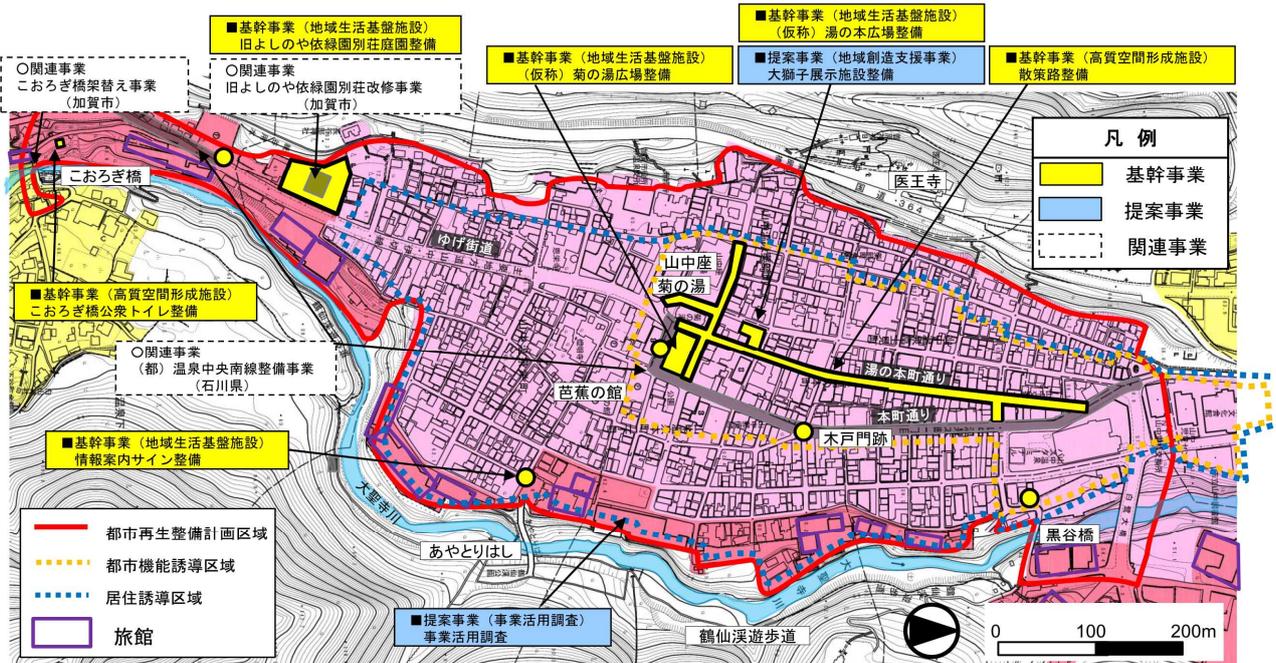
指標

新たな周遊拠点の整備や散策ネットワーク構築により、温泉街の魅力向上が図られ、誘客数の強化とまち歩きの増加による商店街の賑わいを創出する。

山中温泉観光入込客数	464,379人/年 (H29)	→	510,000人/年 (R5)
商店街店舗減少率	4%/5年 (H29)	→	2%/5年 (R5)
湯の本町通り通行者数	403人/10h (H29)	→	600人/10h (R5)

事業内容

- 基幹事業 (428百万円) → (仮称) 菊の湯広場整備 (A=700㎡)、旧よしのや依緑園別荘庭園整備 (A=2,300㎡)、(仮称) 湯の本広場整備 (A=440㎡)、情報案内サイン整備 (N=4箇所)、散策路整備 (L=630m)、こおろぎ橋公衆トイレ整備 (N=1棟)
- 提案事業 (26百万円) → 事業活用調査、大獅子展示施設整備



地区の現況と課題

山中温泉地区は、1300年に及ぶ歴史を有し、山中漆器や山中節などの伝統文化のほか、鶴仙溪の美しい自然にふれあえる温泉街である。温泉街は、大聖寺川の渓谷に沿って温泉旅館が建ち並び、総湯「菊の湯」を中心に商店街と住宅地が形成されている。地場産業の漆器製造とともに観光地として発展してきた本地区であるが、消費者ニーズや旅行形態の変化、長引く景気低迷などの中において観光客数は、平成3年の850千人をピークに平成19年には441千人にまで減少し、旅館数は全盛期の半分の19館であり、地区内の各商店街においても空店舗が目立つようになっている。

平成17年度から平成21年度のまちづくり交付金事業（山中南地区）では、広場、散策路や案内板の整備などに取り組み、温泉街の魅力向上が図られている。また、石川県の街路事業により「山中温泉ゆげ街道」の整備が進められ、沿線にある湯の出町と南町の商店街の賑わいづくりに大きく寄与している。

課題としては、山中漆器や山中節などの伝統文化と鶴仙溪の優れた自然を有しているが、温泉街のまち歩きが楽しめる周遊ルートが充実していないため、地域資源が活かされていない。また、温泉街の中心である菊の湯周辺において、まちなか周遊拠点としての機能が不足していることが挙げられる。

このため、地域住民のほか、旅館事業者や地元観光協会が主体となったまちづくりを推進し、総湯「菊の湯」周辺のまちなか周遊拠点と散策周遊ネットワークの強化・充実により、温泉街と鶴仙溪が一体となった周遊型観光まちづくりが求められている。

提案事業の特徴

事業活用調査

温泉街の回遊性について、利用実態を把握するため、地元住民や観光客からのアンケートを行い、利便性向上に繋がる施策を調査する。

計画策定プロセス

地域のまちづくりに向けた取り組み

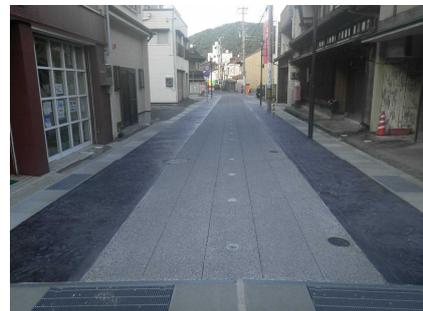
温泉中心街である菊の湯周辺の賑わい創出のため、山中温泉の観光・商工・まちづくり・町内会など各種団体が組織する「菊の湯周辺整備計画検討委員会」において、広場機能の検討に取り組んでいる。また、菊の湯周辺の商店街において、沿線関係者で組織する「湯の本町景観形成推進協議会」及び「本町通りまちづくり協議会」を立ち上げて、まちづくりと街並み景観づくりの推進を目指し、地元が主体的に取り組んでいる。



鶴仙溪の景観



菊の湯広場イメージ図



散策路



案内サインイメージ